
ハルメクです。

ハルメク

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ハルメクです。

【Nコード】
N2951B

【作者名】
ハルメク

【あらすじ】
僕はハルメクというふざけた筆名で小説やら何やらを書いています。

いや、やはり挨拶からするべきでしょうか。
どうも、ハルメクです。

小説やら何やらを書かせてもらっています。あまり人気はありませんが。

誇張でも装いでもなく、僕は弱い人間です。弱くて弱くて、そこにつけ込まれる始末です。

こういうエッセイじみたものを書くとき、いろいろ批判されていますが、許してください。私小説やエッセイを書いている専業作家の方々もいることですし。

弱い人間。

この弱い人間とは何でしょうか。
いろいろありますが、【腕力がない】、【意気地がない】、【能力がない】、【自信がない】、【健康でない】、【精神力がない】などなどのことを世間では総称して『弱い』と言われます。

『弱』ければ汚い辛い騒がしい厳しい社会で生きていくことは難しい、とやはり人々は考えています。

それはそうなのでしょう。

汚い辛い騒がしい厳しい社会では『弱い』者は所謂『強い』者に負けて仕舞うからです。

この構図から昨今問題とされている『負け組』と『勝ち組』という言葉が浮かびます。高学歴の人とそうでない人。成功者と落伍者。

しかし、僕が提示してきた『強い』者が高学歴の人、成功者であるかというと必ずしもそうではありません。同様に『弱い』人が学歴のない人、落伍者であるかという、そうでもないのです。

仮想社会。

学校を例にとってみましょう。

僕は現在、高校三年生です。憧れの作家の出身大学にサイコロを振って偶数の数が出るぐらいの確率で合格しました。その大学も所謂難関大学であり、高学歴には違いがありません。ちょっと不遜極まりないですが、でも、許してください。自分ではそれ程思い上がっていませんから。

話を戻します。

僕の高校では、難関大学に合格することは極めて珍しいのです。進学校ではないので、就職が専門学校か指定校推薦やAO入試で名の知られていない大学に行くことが常です。

始めに記した精神的弱さ、身体的弱さを持った生徒は仮想社会という学校内では『負け組』という名を冠することになります。・・・外見の美醜なども関わってきますが。

この『負け組』たちは精神的に強い、身体的に強い人たちへの隷属化を強要されたりします。たぶんこれは極一部の学校だけかもし

れません。

しかし僕の学校ではそういうことが 日常 としてあります。

『弱い』者と『強い』者の関係。

僕は大学に合格しました。では、僕は『弱い』者でしょうか？
社会的に『弱い』者でしょうか？

仮想社会、学校で就職や専門学校という進路を選ぶ生徒に『負け組』と見なされるほど『弱い』人間でしょうか？

ここで二つの価値が交差します。

仮想社会内では『弱い』人間だが、社会内では『強い』人間である僕。

仮想社会内では『強い』人間だが、社会内では『弱い』人間の生徒。

『生徒』は混乱するでしょう。

仮想社会での『弱』い者が実際には本物の社会では一般的に見て『強い』人間だからです。

この価値の転換、または内在的位置との相違は『生徒』に影響を与えます。

『生徒』はまず、この社会的『強』さを取り込む、または破壊することを主体として行動します。

つまり自分の社会的『弱』さを『僕』の隷属化、または『僕』の社会的『強』さである『学歴』を『頭の良さ』に変換し、それをまた『頭の良いやつは何でもできる』に変換して『僕』が苦手とする分野で『僕』を上回ろうとするのです。

また、『いじめ』によって、仮想社会で虐げ続けて優越がもたらす甘美に浸るということもあります。

結論として、この生徒たちは、自分より『弱い』者を創り出して安心や優越を感じたいまたは支配欲を満たしたいのです。

じゃあ弱い弱いと一方的に定義された僕はどうすれば良いでしょうか。この腕力の無い僕が意固地の無い僕が。

それは、生き様を見せつけてやれば良いのです。僕の生き様を。どんな試練にも耐え、そして大学に行き、学ぶことやその他の活動をし、自分の生き様を確立するのです。

それが、僕の唯一の抵抗であり、武器になるものである、と考えます。

それは強い生徒が持つことのできない生き様なのですから。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2951b/>

ハルメクです。

2010年10月11日23時42分発行